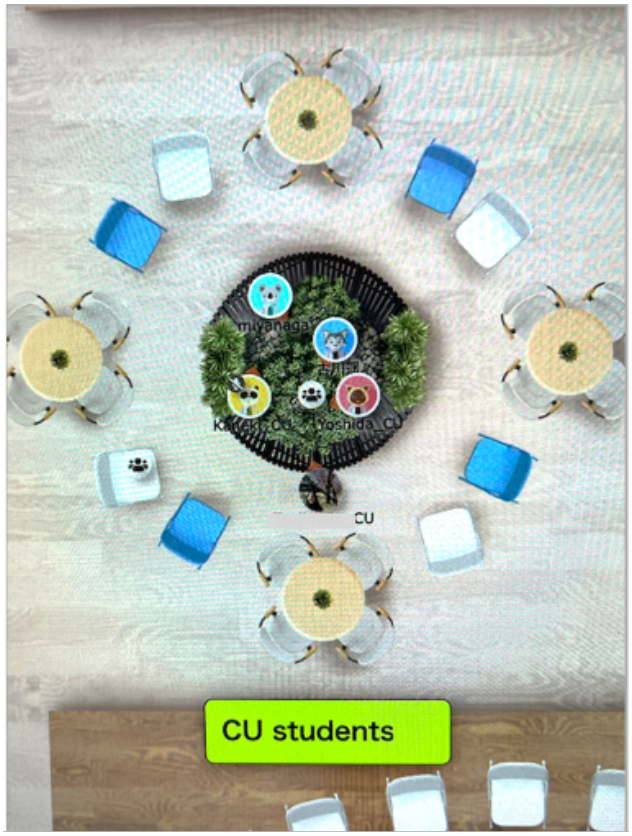

図 15　千葉大学参加学生が oVice 内で集合しグループ学習を行っている様子

最終の成果発表会としてのプレゼンテーション前には、ネット回線や参加人数の増加に備え、回線の増強やスペース内のオブジェクトやリンクを外し、軽量化するなどの調整を行った。そのレイアウトについては、成果発表会の項に記述した。

2-5. ISL プログラム開発

ISL（Interprofessional Service Learning）は本 GRIP プログラムの中核である。3 つの部分から構成され、オンラインでの事前学習、パートナー大学所在地に渡航・滞在しての現地演習(、オンラインでの事後学習となる。事前学習は教材開発のところで記述した通りである。事後学習は、メタバースを使用しての学習成果発表会とその準備であり、これについてはメタバース開発ならびに学習成果発表の項にて記述した。

本項では主に、現地での演習であるフィールド演習について記述する。

2-5-1. フイールド演習の概要

大テーマと小トピックの設定

GRIP プログラムでは健康に関連する社会課題に焦点を当てるが、先述の通り、参加学

生が学習しやすいようにある程度の焦点を絞って、テーマを提示する。テーマに合わせたフィールドを教員が選定・組み合わせ、スケジュールを組んで現地演習として提供するものである。テーマは申請書にも記述した通り、災害、貧困等である。これらのテーマから、さらに SL（Service Learning）フィールドの対象特性（例：子ども、母子、障害者等）に合わせてトピックを設定するなど、学生の学習が焦点づけられるように柔軟に設定する。

後述するが、2022 年度の、日本およびインドでの、各学生の学習テーマは表　の通りである。

表 9　各大学の参加学生の学習テーマと訪問施設・組織（2022 年度）

	Partner universities and location of on-site practice	Theme	Areas, organizations, facilities to visit/participate in	Program duration
Chiba University students	Symbiosis International University (Pune, India)	Children in difficult circumstances in India	Village schools, NGOs supporting children in need	February 14th (Tue) to February 22nd (Wed), 2023
Symbiosis International University students	Chiba University (Chiba and Tokyo, Japan)	Health of older people and community-based care systems in Japan	Self-help groups, home care facilities, disaster preparedness education, NPOs supporting people in need, walking promotion at shopping malls, etc.	March 1st (Wed) to March 9th (Thu), 2023

現地演習のスケジュール概要

現地到着後、オリエンテーションの後、学生はチームに分かれる。5 人/チームとなり、教員が提示するトピックをチームで選択し、トピックに焦点化して、チームでの役割分担や情報共有などを行いつつ学習を行う。2022 年度では、両チームの学生全員が数カ所の組織や施設にて活動に参加し、最終日には各グループのテーマについて、学習成果について発表を行う。この学習成果発表は、最終のプレゼンテーションと同じ、教員が提示したテンプレートを用いて行う。その時点で、教員や現地学生からのフィードバックを得て、最終の学習成果発表会までにさらに洗練する。

学生交流

インド、および日本双方において、インドでは GRIP 参加学生が千葉大学側の GRIP 参加学生のバディとなって、常に数人がプログラム活動に同行する。日本では、SIU 学生来訪時に、GRIP で SIU を訪問した学生が数人、同行する。さらに、現地演習の最終プレゼ

ンテーション日には双方の参加学生が全員揃い、プレゼンテーションを視聴することとなる。学習活動においても交流を行い、共同で学習を行う。

また、演習時間以外での学生同士の交流を推進している。

2-5-2. シンビオシス国際大学（インド）でのフィールド演習

インドでは国の政策としてサービスラーニング（SL）が大学のカリキュラムに組み込まれることとなっており、SIU（シンビオシス国際大学）ではすでに、SCOPE ：Symbiosis Community Outreach Programme and Extension (SCOPE)という一つの部門として組織、サービスラーニングフィールドやカリキュラムが確立されている（https://siu.edu.in/Health-Facilities.php)。活動のターゲットは、健康課題に関連したものから IT 教育や経済的教育提供など多岐にわたるものである。

GRIP プログラムでは、目標がこの SCOPE と非常に合致していることから、SCOPE でのフィールドをサ SL の活動の場として SIU および SCOPE との合意に至った。現地への引率や briefing なども SCOPE の教員が主となり、SCIE との共同にて SL 提供されることとなった。

2022 年度のトライアルにおいては、インド現地でのフィールド演習は、SCOPE からの提案にて、困難な状況にあるこども達をテーマとして、ストリートチルドレンやスラム街のこども達への支援活動への参加を主とすることになった。具体的なプログラム内容およびスケジュールについては、後述する。

2-5-3. 千葉大学（日本）におけるフィールド演習

GRIP 採択以前より、千葉大学は地域との連携を推進してきた実績がある。現在も、地域住民や団地といったところで共同でのプログラムを展開している教員も少なくない。また GRIP プログラムを中心となって推進する看護学研究院においても教員自らがサービス活動の組織メンバーとして活動していたり、あらたな支援組織を立ち上げたり、さらには学生の実習としてすでに SL を取り入れているといった状況があった。それゆえ、GRIP プログラム申請時には、すでに演習組織・場所はいくつか確保されており候補はあった。採択後、さらに GRIP 推進室および IPERC が中心となり、全学レベルでの SL フィールドを把握し、データベース化した。

さらにこれらのフィールド群について、社会課題とそれへの支援という軸と地域毎にクラスター化を行った。SIU との調整の中で、インドでは「困難な状況にあるこども達への支援」という対象特性に関する大きなテーマが提示され、千葉大学においても SIU 学生へ提示するテーマを、日本の喫緊の課題である高齢化とそれに関連する健康課題とした。さらに、フィールドの追加や調整を行いつつ、2022 年度の最終的な日本での学習テーマは、「日本の高齢者の健康と地域包括ケアシステム」とした。小トピックとして、高齢者の健康に関わる、「災害準備教育」と「social capital 」とした。GIRP 申請時からの計画通り、連日異なる施

設を訪問･見学し、活動に参加するプログラムとなった。千葉大学内の健康関連施設として、千葉大学医学部ならびに千葉大学フロンティア医工学センターの見学も含めた。最終的なフィールドおよびトピックによるクラスタ等は、表 10 の通りである。

表 10　日本におけるフィールド演習のトピックおよび具体的内容と組織・施設のクラスタ

トピック	内容	組織・施設	エリア
ソーシャルキャピタル	1. 生活困窮改善・防止、孤立・孤独防止【自助・互助・共助】	①山友会他(路上生活者支援)	墨田・浅草エリア
	2. 日常における健康増進機会と場の提供と活用【自助・互助】	②イオンショッピングモール・モール内ウオーキング（海浜幕張）	葛西・東京湾エリア
	3. 住民によるつながりの構築・維持【自助・互助】	③葛西のインド人コミュニティ ④東千葉地区自治会	千葉市中央 葛西・東京湾エリア
	4. 在宅ケアと集いの場所提供による包括的な健康の支援【互助・共助】	⑤Neighborhood Care(訪問看護・居場所づくり他) ⑥なごみの陽訪問看護ステーション	千葉県北エリア（柏）
	5. 在宅医療ケア提供による地域生活支援【共助】	⑤Neighborhood Care(訪問看護・居場所づくり他) ⑥なごみの陽訪問看護ステーション	千葉市中央エリア（40 分）
災害準備	4. 災害弱者・災害発生時の備えとしての日頃の活動【自助・互助・共助】	④東千葉自治会 ⑥なごみの陽訪問看護ステーション ⑦災害シチズンサイエンス(災害準備教育) ⑧りべるたす(共同生活援助)	千葉市中央エリア 墨田・浅草エリア
先端医療・医療工学開発	5. 高度医療ケア・技術開発・実践	⑨先端医療（大学病院、CCSC） ⑩フロンティア医工学センターラボ見学	千葉市中央